



207号

2015 / 10 / 1

日中文化交流市民サークル「わんりい」
東京都町田市能ヶ谷7-32-12 田井方
〒195-0053 TEL&FAX:042-734-5100
<http://wanli-san.com/>
Eメール:wanli@jcom.home.ne.jp
◆「わんりい」HPのアドレスが上記になりました。



「五粮液」・十里酒城の景観 於:四川省宜賓市 撮影日:2015年8月23日 三好隆盛・撮影
中国三大名酒と称される「五粮液」生産地・十里酒城には近代的なビルが建ちならび、広大な景観に圧倒される。(関連記事:11ページ)

「わんりい」10月号の目次は最終ページにあります

9月の14日から19日まで、友人と北京に行ってきました。この間、北京の空は綺麗に晴れて、青い空には秋の雲・巻雲が浮かんで、昔習った、北京の「秋高气爽(秋空が高く空気がすがすがしい)」とはこのことだろうかと思いました。9月3日(抗日戦勝式典)のために、雨を降らせ、車の通行を規制したからだと言う噂があります。確かに、中国には人工降雨の技術があり、政府は車を規制する強い権限を持っていますが、式典から10日も経ち、車は以前のように走っていますから、この青空は9月3日の名残とは言えないでしょう。

北京の友人によると、時々長安大街の反対側から天安門が霞んで見えることがあるそうです。そんな時、日本の新聞は写真つきで北京の空気の悪さを伝えますが、問題のないときには何も報じないので、日本の読者は、北京の空気はいつもその写真のように、天安門も霞んでいるのだと勘違いしてしまいます。勿論、空気中の成分的には、少なからず問題もあるようですが、日本と違って、道幅が広く、建物が道路際まで迫ってきていないので、空気の質を云々する気分ではありません。却って、首都高の防音壁に囲まれているところの方が息苦しく感じます。

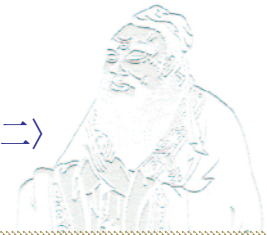
こんなに美しく晴れた空の下でしたが、花の盛りは目にしませんでした。歩道の端に月季(和名コウシンバラ)が植わっている所もありますが、今回は、月季に混じって園芸種のバラ、所謂「薔薇」^{チャンウェイ}がかなりの割合で混じっているのを目にしました。育種の段階でも、少しずつ「薔薇」が増えているのかと思いました。時期が悪いのでしょうか、他には、百日紅^{サルスベリ}が咲き、槿^{ムクゲ}が名残の花をつけているだけでした。その代わりに、天安門広場をはじめ、街角のちょっとした広場にも、鉢植えの花を並べた飾りが設けてありました。これは、9月3日の飾りを10月1日(国慶節)に転用する準備のようです。中国では、祝祭日の飾りは、色鮮やかな鉢植えの花を並べて、大きく立体的なものが好まれます。70周年記念日とか国慶節では、本当に気合を入れて造っています。

前月の続きですが、庶民が毎日の生活の中で好むのは、この時期(と言っても少しずれましたが)蓮^{ハス}の花です。北京の公園には大きな池のあるところが多く、池には必ずと言って良いほど蓮が植わっています。大きな池では、蓮の花の間を縫って船が運航されていて、多くの人々が順番を待って船に乗り込みます。今回行った円明園では、花の盛りを過ぎていたので、船が人を待っていましたが、池の周りを歩いていると、船が蓮の間を抜けていくのが見えました。ここの船はモーターでゆっくり動いていて、ビックリしました。大きな音は立てないので雰囲気は悪くありませんが、私は、やはり紫竹院公園の手漕ぎの船が好きです。

中国では、蓮が泥沼の中から茎をまっすぐ伸ばして水面に出て、葉を茂らせ、綺麗な花を咲かせる様子を、人間の理想の生き方になぞらえて、蓮の花を特別に好む人々が多くいます。

蓮の花の季節になると、どの公園も朝6時前から開園し、早朝の入園料は無料です。人々は、蓮の花が開花する時に立てる、軽い「ポン」という音が聴けるのではないかと期待しながら池のほとりを散歩し、広場で太極拳などをして身体を動かします。たっぷり運動をしてから、帰宅途中で朝食の店に立ち寄って、強力粉を焼って油で揚げた油条・豆腐にとろみをつけた醤油味のソースをかけた豆腐脳・お粥・包子(小ぶりの肉まん)・ワンタン等好みの食事をします。

北京の人々は、朝食から良く食べます。若い女性でも、例えば油条・お粥・包子4個を1回の食事で食べますが、私は、友人と二人で豆腐脳・お粥を半分ずつ、包子を2個ずつも食べればお腹は苦しいくらい一杯になります。料金は、これで10元ほどです。円が安くなった・北京の物価が上がったと言っても、二人分200円で食べられるのですから、朝食はまだ安いものです。但し、お味は店によって差があるので、美味しいものに当たるかどうかは、入ったお店次第です。

jǐ suǒ bú yù wù shī yú rén
己所不欲，勿施於人おのれ ほつ ぼどこ なか
己の欲せざる所は人に施す勿れ 〈顔淵第十二〉うえだ あつ お
桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄

ある時、弟子の仲弓^{ちゆうきゆう}が孔子に「仁」について尋ねました。仲弓は姓を冉、名を雍^{よう}とといいます。仲弓は字^{あざな}です。孔門十哲の一人で、顔回^{げんしけん}や閔子騫^{びんしけん}と並んで德行に優れた人物として名を残しています。

孔子は彼のことを「雍也可使南面^{Yōng yě kě shǐ nán miàn}」(雍^{なんめん}や南面せしむべし)〈雍也第六〉と評しています。南面とは君主を指します。つまり仲弓は一国を支配する君主たる資質を持っている、ということです。

こういう人物であることを見込んだ上で、孔子は次のように答えています。「出門如見大賓，使民如承大祭。己所不欲，勿施於人^{Chū mén rú jiàn dà bīn, shǐ mǐn rú chéng dà jì. Jǐ suǒ bú yù, wù shī yú rén}」(門を出でては大賓^{たいひん}を見るが如く、民を使うには、大祭^{たいさい}を承くるが如くす。己の欲せざる所^{ほどこ}は人に施す勿れ^{なか} 〈顔淵第十二〉)。家を出て人に接するときには、大切な賓客をもてなすように礼を尽くし、人を使うに際しては祭礼^とを執り行うように慎重を期さなければならない。自分がして欲しくないことを人に強いてはならない。「仁」とはこういうものだということです。

ここには権力者の心得が説かれているとみてよいでしょう。権力を持つ者は往々にして人の立場を考えず、横柄に振舞いがちです。人に過酷な労働を課して、省みることをしません。今でもこういう現象は珍しくありませんが、当時はこれが当然と見られていました。こうした風潮を正すことを孔子は自らの使命と考え、その思いを優秀な弟子たちに託していたのです。

同じ質問を孔子は顔回からも受けています。この時孔子は「克己復礼为仁。一日克己复礼，天下归仁

焉^(Kè jǐ fù lǐ wéi rén. Yí rì kè jǐ fù lǐ, tiān xià guī rén yān)」(己^{おのれ}に克ち礼^かを復む^ふを仁と為す。一日己に克ち礼を復めば、天下は仁に歸す^き 〈顔淵第十二〉)と答えています。

己に克つ、とは自己を抑制することです。「克己」という語は現代中国語としても日本語としても生きています。礼を復むとは、礼を実践することです。「礼」という語は今日では礼儀作法とかセレモニーの意味で使われますが、当時はもっと広く、すべての道徳規範、社会規範という意味合いを持っていました。それは今日でいう法と道徳を包括するものでした。後世のような成文法^{せいぶんほう}はまだ一般化してない時代のことです。したがって「礼」がなければ社会秩序は際限なく崩壊していきます。そこで己の欲望に屈することなく、この「礼」を守り実践していくのが「仁」の道で、権力を持つものがこれを実現すれば、天下の人民はおのずとこれに従うようになる、ということです。

顔回は貧乏のどん底にありましたが、孔子の教えを実現すべく、喜々として勉学に励んでいました。孔子は顔回のことを「回也其心三月不違仁，其餘則日月至焉而已矣^{Huí yě qí xīn sān yuè bù wéi rén, qí yú zé rì yuè zhì yān ér yǐ yǐ}」(回^{かい}や其^その心三月仁に違わず、其の余は則ち日月至るのみ^{こころさんげつ たが よ すなわ じつげつ}) 〈雍也第六〉) と言って褒めています。顔回は三か月も「仁」の心に違うことがなかった。他の連中は一日か、せいぜい一か月で挫けてしまうのに……。

しかし孔子の期待にもかかわらず、顔回は官途に就くことなく早世してしまいました。孔子は「噫、天^あ予^{われ}を喪^{ほろ}ぼせり」〈先進第十一〉と叫んで慟哭しました。

(わりい「中国語で読む漢詩の会」講師)

【前回までのあらすじ】科挙の試験に合格し、出世を夢見る柳書生は、すでに科挙の試験に合格し出世街道を歩く友人の秦槐から、「妻が狐であるものが、科挙の試験に合格することは不可能だ。出世するのを諦めるか、狐の妻を守るか、どちらかを選ぶしかない」と強く言われました。覚悟を決めた柳は、秦槐の勧めにのり手渡された毒薬で妻の鈴児を亡き者にして、3年一回の科挙の試験を受けるため都に向かいました。

しかし、思ってもみなかったことに、都で彼を待っていたのは牢獄でした。

柳は都に入ると、そのまま捉えられ、殺人犯として監獄に投げ入れられました。

考えてみれば自分は妻を毒殺したのですから殺人犯に間違いありません。牢獄に投げ込まれるのは当然のことです。しかし、納得がゆかないのは、彼の罪名は「皇妃殺しの罪」だということです。

柳は事情が呑み込めません。鈴児は確かに自分の手で殺しました。けれど鈴児以外に人を殺したことなくありません。若しかしたら鈴児は皇妃なのでしょうか。しかし、誰も詳しいことは説明してくれないままでした。

ところがある日柳は意外なことに柳と同じ囚人服を着ている秦槐に出会いました。秦槐は柳を見かけると顔に薄笑いを浮かべて言いました。

「早かったね。君ももうここに入ったんだね」

柳はこの時突然「この人間こそ自分が知らないところで何か悪い企みをしていたのではないか」

と気が付きました。

「秦槐、君はどうしてここに収容されたのか。君も何か悪いことをしたのか。私を見てそんな嬉しそうな顔をするのは一体どうしてなのか。若しかしたら君は私に妻を殺させようと狙っていたのか？」

「教えてやろうか。実は私の義父は国の宰相である秦渭だよ。残念ながら、彼は悪いことをやり続けていたがそれが発覚して、つい最近罷免されて俺も巻き込まれたのだ。君の事といえば、実は、初めて都で試験を受けた時、第一位は君で、俺が第二位だった。義父は君が志の大きい、辣腕で優秀な人材だと評価した。しかし、義父が思うには、もし私たち二人が共に朝廷に入ったら、俺は君にはとても勝てそうもない。いやそれどころか、君はむしろ俺の出世の障碍になるに違いない。それで義父は君の答案用紙を成績の芳しくない者と差し替えた。結局、君も知っての通り、俺が第一位になって君は落第した。その後も君は何回も落ちたが、その訳は同じ理由だ。もう分かったかね」

柳は秦槐の話聞いて初めて、自分がなかなか試験に合格できなかった訳がはっきりしました。

柳は秦槐の話聞いて初めて、自分がなかなか試験に合格できなかった訳がはっきりしました。

柳は怒りと悲しみで壁を叩きながら秦槐を問い詰めました。

「それにしても、私の妻は何も罪がないのに、どうして殺させたのだ」

「それにも君が知らない理由があった。実は君の妻は前皇帝の皇妃だった。知っていると思うが、皇帝がなくなると皇妃たちは皇帝と共に埋



満
栢

葬されるというのが後宮の決まりじゃないか。しかし、皇妃である彼女は決まりを破って姿をくらましてしまった。俺は朝廷の命令で密かに何年も彼女を探してきた。が、こともあろうに君の家にいると分かった。君はまだ出世の志望を捨てずに一所懸命頑張っていると知り、私は一石二鳥の策を練った。その方法なら自分の手で人を殺さなくて済むのだ。どうだい？ これで全てははっきりしたか」

柳は秦槐の話をここまで聞くと、身体から力が抜けたように床に倒れてしまいました。

半月後、奸臣の秦涓、秦槐は裁判の結果、共に死

罪になったという噂が聞こえて来ました。

それから間もなく皇帝より柳に対しても、

「皇妃は、皇室の決まりにより死罪に相当するものであるが、民間人である柳が犯した殺人の罪を免ずることはできない。まして自分の妻を殺害するなどという罪は許されようもない」

と死罪が言い渡されました。

その後、秦槐は確かに処刑されました。しかし、柳は死んでいないという噂が町中で聞かれました。

柳が処刑される間際に、白い狐が現れ、一瞬のうちに柳を銜^{くわ}えて去ったというのです。 (終わり)

昔のことでした。

ある村に周甲という農民がいました。妻がとても強い女で、周甲は妻からたびたび暴力を振られました。

ある日の夜、つまらないことで妻の機嫌を損ねた周甲は、妻から殴られたり蹴られたりなどの暴力を振るわれ、とうとう耐えられなくなって、妻が熟睡している間に、荒れ果てた村の廟に逃げ込んで隠れました。夜が明けたら友人に仲介を頼んで妻に許しを乞おうと思っていました。ところが、朝になって目を覚ました妻は、周甲のいるところを察して廟へやってきました。そして廟の神像に向かって、周甲の罪を数え上げた後、周甲を叱りつけて周甲の背中を鞭で打ちました。

実は、この廟や周辺には多数の狐たちが住み着いていました。周甲は十何回も妻に鞭打たれると、その痛さで泣き叫んだので、周甲の悲鳴を聞きつけた雄の狐たちががやがやと現れて二人の周りを取り囲みました。そして、周甲を妻の手から奪いとると垣根の隅に連れて行き、妻に向かって言いました。

「世の中にこんな不公平なことがあってたまるか！」

雄の狐たちは周甲の妻を捕らえると素っ裸にして鞭打ち始め、血が流れても許そうとしませんでした。

と、突然雌の狐たちががやがやと現れました。

「男どもは、周甲が男だから周甲の肩を持つてるんじゃないの。この男は妻に背いて他所の女とこっそり良い仲になってるんだ。女として許されないじゃないか。死んだっていいくらいのもんだ」

雌の狐たちはそう言うと、雄の狐達から妻を奪い取り垣根の隅に連れて行き、周甲を捕らえようとなりました。雌雄の狐達がそれぞれを救おうと対戦になり、大変な騒ぎが続きました。

村の畑の監視員が廟の騒ぎを聞きつけ、さては泥棒が騒いでいると思い込み銃声で威嚇しました。狐達は驚いてすぐさま逃げてしまいました。

妻はぐったりしたままでしたので、周甲は彼女を背負って、こけつ、まろびつ、喘ぎつつ家に帰りました。妻は帰る途中でも、周甲の背中であつあつ夫を怒鳴りつけているのが隣人達に聞こえました。 (終わり)

私の調べた諺・慣用句 43

郷に入っ
ては郷に
従え

三澤
統

私達は人生の様々な場面で、環境が変わる経験を繰り返します。「新しい学校に入学する」、「会社へ入社する」、「新しい土地へ引っ越す」等です。新しい環境ではいままでとは異なるいろいろな仕来りがあって、まずはその仕来りに慣れてゆくことが肝心です。なかには自分の考えにそぐわない仕来りもあつたりしますが、そこは“郷に入ったら郷に従え”ではないでしょうか。いつまでも自分流に拘っていても、新しい環境では旨くゆかないこともあるでしょうから。

「郷に入っ
ては郷に
従え」につい

て辞書では下記のように説明されています。

▲ 小学館 デジタル大辞泉：

「郷に入っ
ては郷に
従え その土地に住むには
その風俗・習慣に従うのが処世の術である」

▲ 小学館 中日辞典：

「入郷随郷 rù xiāng suí xiāng 郷に入っ
ては郷
に従え。“入郷随俗”，“随郷入郷”とも」

この故事の出自は〈六度集経注〉・之裸国経〉です。

昔ある地方に、人々が裸で暮らしている村がありました。そのため、その地方は「裸の郷」とか「裸の国」などと呼ばれていました。

ある時、二人の兄弟がその村へ商売に行くことになりました。

弟は、

「礼節を知り徳のある人は衣食が充分であるけれど、礼節に欠け徳の少ない人は衣食が足りないようだ。今僕たちは裸の郷にやって来たけど、ここは礼節を知らず、道徳心も十分とはいえないようだ。僕たちがここで彼らと商売をするのは結構難しそうだね。だから僕たちは『郷に入ったら郷に従え』で、ここの人たちの決まりに従うべきだろうね。ここの人たちと付き合うには、あまり細かなことを気にせず言葉も謙虚にしよう。何事も彼らのレベルに合わせて接するように努



満柏 画

めれば、何とかなるんじゃないかな」

と言いました。弟の意見を聞いて兄は

「いや、礼節や道徳は欠かすことができない。僕は彼らのレベルに合わせるなんてできそうもないよ。お前がひとりで行って商売したらいい」

と言いました。弟が更に、

「こここの人のレベルに僕達が合わせたからといって僕達が礼節や道徳心を捨ててしまうことにはならないよ！ だって僕達自身は変わらないのだから。兄さんはいつも真っ直ぐで正しくありたいと心掛けて生きているから自分を曲げられない気持ちも分かるけど。でも、ちょっとだけ我慢して村の人と付き合えばいいだけだよ。ねえ、やっぱり兄さんも一緒に行こうよ」

と言いましたが、兄は

「やはりお前が先に行ってちょっと村の様子を見て来てどんな村なのか僕に教えておくれ」

と言いました。弟は承知して一人で村に向かいました。

十日後、弟が戻って来て兄に告げました。「彼らの様子をいろいろ見てきたけど、ここで商売をするなら、やはりここの人たちに合せてこの土地の習慣に従うべきだよ」

兄はそれを聞くと急に顔色を変えてえらい剣幕で怒りました。

「なんだとお！ じゃお前はそうしなさい。僕は自分を曲げるなんてことはできない！」

弟はまた裸の村に戻って行きました。そしてこの地の風俗・慣習に従い、土地の人と一緒に日を送りました。

村長は弟を好み、高値で彼の商品をいろいろ買ってくれました。村人たちも弟を尊敬しました。その後、兄も車に乗って裸の村に商品を売りに来ましたが、兄は頑固に礼節と道徳にこだわり、村の風習を無視し村人の心を傷つけました。村長は怒り、村人も兄を嫌いました。

二人が裸の村を去る日が来ました。人々は道の両側に並んで弟を見送りましたが、兄に対しては罵声を浴びせました。兄は怒って、弟を恨み、そして考えました。“弟はどうして彼らとあのように親しく出来たのだろう。僕が村人とうまく行かなかったのは、きっと弟が僕のことを中傷したのにちがいない”そして兄は弟に言いました。「以後、お前とは絶交だ!」弟は涙を流して

悲しみました。その後の兄弟の仲は良くありませんでしたが、弟は相変わらず蔭で何かと兄を支えながら生きてゆきました。

(出典：中華成語故事大全

http://blog.sina.com.cn/s/blog_4cabd2fc0102e0jf.html)

〈注記〉

六度集経(ろくどじっきょう)：中国・三国呉の訳経僧である康僧会(こう そうえ)の著述であろうと考えられている。初期の中国仏教と儒教的な観念との接触、交渉の端緒として、見るべきものがある。

(ウィキペディアより抜粋)

詩人尹世霖の童詩の世界①⑥

金子總子・訳

hǎi yán 海 岩

bà ba xiě wén zhāng
爸爸写文章，

shuō hǎi yán zuì jiān qiáng
说海岩最坚强，

néng cì chuān hǎi miàn
能刺穿海面，

néng dǔ dǎng fēng làng
能堵挡风浪。

mā ma shì huà jiā
妈妈是画家，

huà hǎi yán zuì qiáng dà
画海岩最强大，

néng zhàn shèng bō tāo
能战胜波涛，

néng dǎ suì làng huā
能打碎浪花。

wǒ shuō hǎi yán shì dǎn xiǎo guǐ
我说海岩是胆小鬼，

cóng shēn hǎi wǎng qiǎn hǎi chè tuì
从深海往浅海撤退；

tā yǒng yuǎn bù huì chī diào dà hǎi
它永远不会吃掉大海，

què zǎo wǎn yào bèi dà hǎi jī suì
却早晚要被大海击碎！



海の岩

父さんは 文章を 書く
海の岩は もっとも堅く たじろがず
海面を 突き刺し 穿ち
逆巻く浪を 遮り 防ぐ という



母さんは画家だ
海の岩は 最も 強く大きく
波濤に 打ち勝ち
波しぶきを 打ち砕いている 絵を画く

ボクは 海の岩は 弱虫だ という
深い海から 浅い海に 逃げてきた
そいつは 永遠に
大海を 全滅させることはできなくて
却って
遅かれ早かれ 大海に
打ち砕かれて
しまうのだから！



元寇と鷹島 (その1)

寺西 俊英

今回から、何回かにわたり「元寇と鷹島」およびそれらに関することについていろいろな角度で書き進めて行きたい。

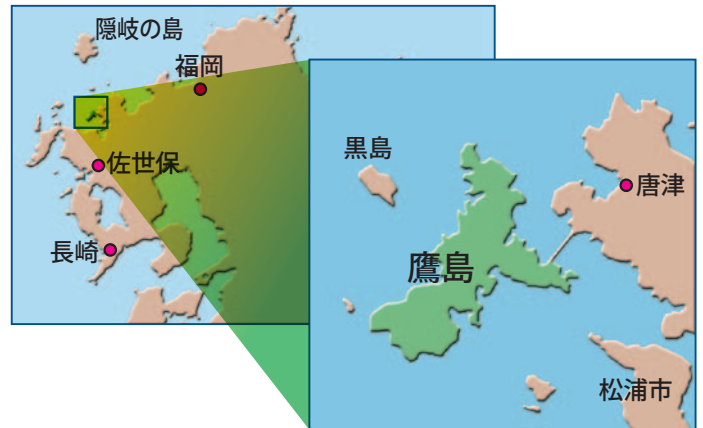
「元寇」と言えば、一般の日本人の歴史認識は、〈大都(今の北京)に都を定めた元(1271年～1368年)は、高麗を属国にした後日本に対してもたびたび朝貢を要求したが、時の鎌倉幕府の執権・北条時宗が拒否したため高麗を従えて2度に渡って日本に攻め寄せた。日本はその都度危機的状況に陥りながらも、2度とも神風(台風)が吹いたおかげでかなりの犠牲を出しながらなんとか防ぐことが出来た。しかし元寇の影響は大きく、十分な恩賞がもらえなかった御家人たちの不満の中で幕府は衰退していった〉

といったところではなかろうか。

私はかねてより元寇について連載してみたいと思っていたが、その要因の一つが友人のMさんの話である。元の軍船が壱岐・対馬を蹂躪した後、九州の北部沿岸に大挙して来たが、特に弘安の役にその戦いの中心地は「鷹島(たかしま)」だった。その鷹島にMさんが住まわれたことがあり、時折、彼から元寇について話を伺って興味を抱いたことである。Mさんにより鷹島の存在を知り、この島の周辺で何千という元の軍船が海の藻屑として消えたことを知った。

もう一つは、会社の同僚で友人のT君から聞いた話である。彼は私が勤務していた大連の会社の副総経理(副社長)をしていた人である。彼は大連で中国人の友人と日中間の歴史について話す機会があり、第二次世界大戦における日本軍の侵略について話が及んだという。

T君は、「第二次世界大戦では日本は中国に大変な迷惑をかけたが、長い歴史を振り返ると最初に日本を侵略しようとして攻撃してきたのは、中



国の元でしょう」と中国人の友人に話したら、「あれは蒙古族で漢族が攻撃したわけではない」と言い張ったという。T君は、「では日清戦争も満州族と日本との戦いで漢民族の中国は関係ないと言うの?」と言い返すと中国人の友人は黙った、というのである。

この話は私の頭に妙に残ってしまった。中国政府は、中国は56の民族から構成されていると言っているが、中国人の一部の人は、元寇についてこのような認識をもっているのかと驚いた。元寇についてつたない知識しか持ち合わせていないが、それやこれやで元寇について書いてみようと思ったのである。何から書いていけばいいのか悩んだが、まず鷹島という小島の概要を紹介しようと思う。

「鷹島」は、現在は長崎県松浦市鷹島町である。以前は、長崎県北松浦郡にある町であったが、2006年1月1日に「松浦市」「福島町」との合併で松浦市となった。人口は、2015年7月現在で2,333人である。掲載の地図をご覧になるとお分かりと思うが、伊万里湾の沖合に横たわる東西5km、南北13kmの小島で面積は17.11km²である。以前はフェリーが島と九州本土とを取り持ったが、現在は立派な橋が架かり(鷹島肥前大橋)、車で訪れることが出来るようになった。私も機会を見つけて一度行こうと思っている。島の周

辺は、台風に遭遇した多くの元船が沈んでいる。すでに700年以上経っているが、元船の一部が発見され、昭和55年から水中考古学調査が開始されている。いずれ詳述する予定であるが島のあちこちに元寇の遺跡が残されている。

この地方は当時の日本の都の京都から見ると辺境(?)の地と思われていたであろうが、しかし中国大陆や朝鮮半島からは玄関口に当たっていた。そのため国際的な関係において日本史にしばしば登場するのである。これから述べる13世紀に起こった元寇の舞台をはじめ、16世紀末の豊臣秀吉の朝鮮征伐時に築城した「名護屋城」(佐賀県)は鷹島と指呼の距離である。

また徳川時代の鎖国政策時に長崎奉行の監視下で、同じ長崎県の平戸や出島は例外的に他国との貿易を許されたのはご承知の通りである。元軍が攻め寄せようと思ったらしい「大宰府」はそう遠くない。すこし歴史をさかのぼり14世紀～16世紀にかけて、中国の沿岸地方や朝鮮半島を荒らした海賊である倭寇(特に前期倭寇)は、壱岐・対馬やこのあたりの住人が主力らしい。一説には、元寇の報復だとする見方もある。元寇と倭寇は底流においてつながっているのかもしれない。倭寇についてはいずれ項を設けたい。

第1回目なので、「元寇」という言葉について見てみたい。まず「寇」であるが、漢和辞典を引くとこの文字の成り立ちは次のように書いてある。

〈他人の家(うかんむり)に押し入って元(人の意)を打つ(支の字に似た部分)さまにより、他人に大害を与える意を表す〉。意味は、①害をあたえる、しいたげる ②仇、外敵、かたき、などとなっております。イメージの良い文字ではない。例として「外寇」「倭寇」などがあげられている。次に中国語辞典で見ると、①強盗(例として海寇＝海賊) ②侵略者(例として外寇＝侵略者)③姓、などとなっている。

「寇」という姓の方にはお会いしたことがない

が、若しいらっしゃれば、少し肩身の狭い思いをされてはいないかと余計なことを心配してしまう。いずれにしても漢字は中国から入ってきているので意味に大差はない。

次にこの戦いを誰が「元寇」と名付けたのであろうか。日本の文献では鎌倉・室町時代には「蒙古襲来」「蒙古合戦」、また個別に「文永合戦」「弘安合戦」などと表記されていた。一方元や高麗の文献では、「征東または東征」「日本之役」などと表記されているようだ。「元寇」という呼称は、江戸時代に徳川光圀が編纂した「大日本史」に最初に用いられた。江戸時代後期になって元寇の呼称が一般化してきて今日に至っている。

では今の中国では何と呼んでいるのかを留学生に聞いたところ、「元日戦争」で、個別に「文永之戦」「弘安之戦」と呼んでいるという。中学または高校の教科書に書かれているのかを聞いてみると、「省によって違うかもしれないが私の出身の省の教科書には記載されていなかったと思う」との返事であった。それを裏付けるようにMさんの書かれた文章に次のように書かれている。

〈1999年にハルピンに短期留学した時、街で買った高級中学の中国古代史で調べてみると、蒙古軍は1271年の全国統一までの歴史は書かれているが、1274年および1281年の2回にわたり日本を攻めたが失敗したとはどこにも出ていない〉

とある。少なくとも黒竜江省では教えていないようだ。日本では、どの歴史の教科書にも必ず記載されているし、19世紀以前の歴史の中では、最大の国難であったであろう。日中では元寇に対する歴史認識に乖離があると言わざるを得ない。それとも「台風でやられた！」なんてみっともないから書かなかったのかも。

2回目は、Mさんが中国の南方にある大学に短期留学する時、しばしば乗船された「鑑真号」から書いていきたい。

私事ですが息子が女王谷(現在ギャロンと呼ばれる地域のチベット語の原名“rGyalmorong”の意識)にある丹巴の中学校へ入学しましたので、その折に見聞きした中学校を巡る事情の一部をご紹介します。

丹巴では小学校と同じく中学も義務教育で公立ですが当地では入学試験があります。町の小学校に1000人位の子供を集めて入学試験を2回行います。1回は成都の有名中学の試験と同じ水準で、もう1回は普通の授業で使う教科書の水準です。この2回の試験成績を総合して子供の学力をランク付けし、県内にある3つの中学校と数種類の特別クラスに振り分けます。

中学校はランク付けされていて、丹巴中学校、丹巴第二中学校、半扇門中学校の順です。丹巴中学校には試験のトップ40人が入れる特別Aクラス(仮称)と次の50人が入れる特別Bクラスがあります。丹巴第二中学校と半扇門中学校にも各学校のトップ50人位が入れる特別Cクラスがあります。

特別Aクラスは成都の有名中学の一つと提携してほぼ同じ授業を行っていて高校進学に有利なため、入学試験で良い試験成績を得られるよう親は子供を励まします。丹巴中学校は町の郊外にあり完全寄宿制です。学校の周辺は農家と少数の雑貨屋や食



山の中の割には広く整備された校舎の一部

堂だけがあり、且つ集落から川で隔てられているため、子供の生活環境が保護されています。子供は土曜日の昼に自宅へ帰り、日曜日の夕方に中学校へ戻ります。

丹巴第二中学校は町の中に、半扇門中学校は郷村部にあり、親や親戚の家からの通学と寄宿の両方が可能です。

新学期は8月中旬から始まります。先ず特別クラスが始まり、10日位遅れて一般のクラスが始まります。寄宿している子供は毎日06:30起床して準備体操、07:00朝食です。授業は月曜から金曜まで凡朝8:00～12:30、14:00～17:30、19:00～20:30です。土曜日は朝8:00～



前は川、後は急斜面の山に挟まれた校舎



寄宿舎の傍らに在る庭。

12:30です。厳しいスケジュールですが、塾通いしたり自習する事を考えるとそれ程でも無いようです。また子供は昼食の後、教室の机に俯せになって30分間昼寝するよう義務付けられていて、厳しいスケジュールを熟す一助になっています。

中学校は基本的に無料で、親が負担するのは補習教材や寄宿舎での食事費用位です。成都の有名中学に通う子供の親は塾通いや個人教授に多額の費用を支払っていますので、この点では丹巴の子供の親は楽です(但し親は気遣って色々差し入れますが)。これも辺地に住む少数民族の優遇策の一つかも知れません。

丹巴の子供たちの学力はやっと成都の有名中学のビリ辺りで、これから「^{ジャーヨウ}加油(がんばれ)」だと息

子を励ましています。寄宿生活が始まり寂しくはなりましたが、息子の身長はもう母親を追い越し、家の中での存在感が増しています。いずれ私も追い越されますが、其の頃には家を出て行ってくれる? ものと思っています。

●大川さんのホームページはこちら

<http://www.sgns.gov.cn/scholaweb/conts.htm>

<http://www.sgns.gov.cn/scholaweb/queenvalley.htm>

▶お知らせ：女王谷のHP

(<http://rgyalmorong.info/>) に、当地の風情を紹介するサンプルビデオ(MP4形式8MB前後)1分余り×15本を追加しました。日本語HPに入って頂いて、先頭頁の左下に有る、「風情のあるビデオ」(<http://rgyalmorong.info/scholaweb/queenvideo-j.htm>)でご覧になれます。

【表紙写真説明】

四川銘酒「五糧液」について

今年8月23日から26日に掛けて、四川省宜賓市で行われた「2015年中国四川国際文化観光祭」に参加した。いくつかの観光ポイントを巡った中で、工業旅行の模範地として名を知られ、「酒の海」とも称される「五糧液」・十里酒城はもっとも印象深かった。

中国では、^{ハイジュウ}白酒独特の香りと味の種類によって^{シャンシン}香型という分類の仕方があるが、濃香型「五糧液」(四川省宜賓市)、醬香型「茅台酒」(貴州省仁懷市)、清香型「汾酒」(山西省汾陽市)が中国の「三大銘酒」とされている。

「五糧液」は濃香タイプ的小麦麴酒で、「五糧液」を口に含めば、その馥郁とした甘い香り、また、酸味のある清冽で爽やかな香りがいつまでも口に残る。口あたりのよさは抜群で、国内外によく知られている。日本では茅台酒(貴州省仁懷市)が名高いが、実は2007年、中国商業連合会中華老舗工作委員会が行った市場調査「2007～2008消費者に人気の中国の老舗」に

おいて、中国消費者の投票で選ばれた老舗ブランド100社の中で、五糧液だけが高級白酒メーカー産であった。

では「五糧液」の人気の元はなんだろう? 「五糧」は「五穀」で、すなわち高粱・玉米(トウモロコシ)・^{うるち}小米(粳米)・^{もち}糯米・小麦という5つの穀物のことである。つまり上記5種類の穀物から作られた最高級酒であるが、ただ「五糧液」を名酒にしているのは単に「五穀」が原料であるというだけではない。たとえ最上級の五穀を取りそろえたとしてもそれだけでは美酒を造ることはできない。酒造りには「水」の質も大切な要素だ。

「五糧液」を産出している宜賓市は、四川省南部、金沙江と岷江の合流地点に位置し、水質が清浄で、酒の醸造に適している。3000年前に、すでに酒の醸造が始まり、今や「五糧液」十里酒城という酒造大工業地域を有するのも、宜賓市が、酒造りに欠かせない良好な水質に恵まれたことにもよろう。

(三好隆盛)



オリンピック再考

陽光新聞社・顧問

塩澤宏宣

1964年の東京オリンピックから50年経て、2020年に再度のオリンピックが開催されます。メインスタジアムの「新国立競技場」プランの白紙撤回やエンブレムの類似問題など、負の話題ばかりのマスコミ報道につくづく嫌気が差しています。そこでオリンピックの原点を再考し、違った角度から東京オリンピックを盛り立ててみたいと思います。

古代オリンピックとは

歴史的には、紀元前776年に最初のオリンピックが開催されたといわれています。現存する最古の文書がオリンピックの勝利者リストであったこと

から、「歴史の幕開け」という言葉はスポーツの起源、とりわけオリンピックと同義語です。

オリンピックに出場するアスリートたちは、ギリシャ各地からやってきましたから当時は、さまざまな土地で競技会が開催されていたと推察できます。しかし、エジプトではすでに紀元前3000年ごろには競技が始まっていたといえます。これらの競技は、エジプト王族や上流階級の娯楽としての位置づけで、ギリシャのそれとは異なっていました。それではギリシャの競技は、どのような目的を持っていたのでしょうか。

“健全な精神は、健全な肉体に宿る”というフレーズを皆さんご記憶でしょう。心身を最大限に鍛えあげ、超人的なパワーで不可能を可能にするというスポーツ本来の純粋な理想に基づいた「アスリート精神」が定義され、さらにルールも設定されました。

詩人ピンダロスはうたっています。

“オリンピックは、すべての競技の中で、最も光り輝いている。太陽が宇宙の中で最もまばゆいように”

古代オリンピックの聖地は「オリンピア」

ここで4年に1回開催されました。こうしたルール

や競技種目を決めたのはヘラクレスだといわれています。競技はいろいろ変化していますが、最初のころは「徒競走・ボクシング・レスリング・円盤投げ」などでした。なかでも一番重要なことは、「オリンピックの開催中は、すべての国家が戦いをやめる」というルールがあったことです。休戦の掟を破った都市国家は、理由のいかんにかかわらず、ギリシャ世界から追放されるという厳しいルールでした。オリンピックの開催地が移動するようになったのは近代オリンピックが復活してからです。

古代オリンピックは293回続いた

やがてローマ帝国が勃興してギリシャはローマに占領されました。ローマがキリスト教を国教と決めたのが392年ですが、その翌年の393年を最後に異教の祭典であるオリンピックは廃止されました。紀元前776年に始まったオリンピックは293回続いたということです。近代オリンピックとして復活するまでの約1500年間は深い眠りについていました。

1896年近代オリンピックとして復活

フランスのクーベルタン男爵がオリンピックを復活したことは、皆さんよくご存知と思います。第1回大会は、歴史にちなんでギリシャのアテネで開催されました。博愛主義者の男爵は、彼の研究によって古代ギリシャ人の価値観を深く理解し、「スポーツによって人類の心と身体がバランスよく高められていくことを再発見」しました。近代オリンピックの象徴である五輪のマークは、クーベルタンが考案しました。世界5大陸（青：オセアニア、黄：アジア、黒：アフリカ、緑：ヨーロッパ、赤：アメリカ）と、五つの自然現象（火の赤・水の青・木の緑・土の黒・砂の黄色）と、スポーツの5大鉄則（情熱・水分・体力・技術・栄養）を原色5色の5つの重なり合う輪で表現したものです。

本来彼は、パリで開催したかったようですが、ギリシャの要望を受け入れてアテネに譲ったそうです。第1回大会には多くの国が参加し、311人の選手が出場しました。イギリス・フランス・ドイツ・ハンガリーから81名、遠くアメリカから14名も参加したそうです。残りはギリシャの選手でした。

ヒットラーが政治に利用

1936年のベルリン大会(第11回)は、ヒットラーに指揮された大会でした。ドイツの国威発揚を徹底的に演出しました。初めて聖火リレーを実施。聖火をアテネで点火してドイツ・ベルリンまで運ぶという、今日のスタイルです。女性監督(レニ・リーフェンシュタール)による記録映画「民族の祭典」は映像によるプロパガンダとして威力を発揮しました。

なお、ドイツでは1916年の第6回大会が予定されていましたが、第1次世界大戦で中止になっていました。1940年の東京大会と1944年のロンドン大会も第2次世界大戦のために中止になりました。1948年のロンドン大会には日本とドイツは出場できませんでした。それ以降のオリンピックは、政治に左右されるようになりました。

1968年のメキシコ大会では、黒人差別を訴える場と化し、1972年のミュンヘン大会では、アラブのゲリラによるイスラエル選手に対するテロ事件。1976年のモントリオール大会になると、ニュージーランドのラグビーチームの南アフリカ遠征に反対して、アフリカ諸国22か国がボイコット。そして、1980年のモスクワ大会では、ソ連のアフガニスタン侵攻に反発したアメリカ・西ドイツ・日本などの西側諸国が相次いでボイコットをしました。1984年ロサンゼルス大会では、東ヨーロッパ諸国が報復ボイコットを行なうなど、古代オリンピックの精神は忘れられてしまいました。

商業主義化したロサンゼルス大会

大会組織委員長のピート・ユベロス氏は、一業種一社のスポンサーを募って高額な料金を集めたり、テレビ放映料を吊り上げるなど、オリンピックをビジネス化しました。アマチュアとプロ選手という概念(オリンピック憲章にはプロ・アマの規定はない)も消えてしまいました。競技場建設にも莫大な資金を投入するようになり、その結果発展途上国では開催できなくなるなど、最近問題になっています。新国立競技場の「白紙撤回問題」などもその影響があるのではないのでしょうか。

日本人が命名した「パラリンピック」

パラリンピックの原点は、第2次世界大戦の傷病

兵のリハビリを目的にした大会だそうです。1960年のローマ大会を第1回大会としています。そして1988年のソウル大会から正式に「パラリンピック」の名称がつけました。ところで「パラリンピック」の名称は、日本人が考えたということをご存知でしょうか。残念ながら考案者の名前は不詳です。

冬季オリンピックはシャモニー大会が始まり

夏の大会から遅れること28年、1924年のシャモニー(フランス)大会から冬季大会がスタートしました。雪や氷が必須ですから開催地は限られます。日本も1972年の札幌、1998年の長野大会と過去2回開催しています。当初は、夏季・冬季が同年開催されていましたが、1992年のアルベールヴィル(フランス)の次に、1994年リレハンメル(ノルウェー)大会から夏季・冬季が2年ごとになりました。夏冬の同時開催だと参加費用がかさみ、また冬季大会の盛り上がり欠けるといったことが理由のようです。

1964年東京オリンピックの思い出

東京大会は、戦後復興・高度成長の牽引車だったような気がします。「オリンピックのため」というフレーズは、水戸黄門の印籠のような威力があったのではないのでしょうか。10月10日の朝は、前夜の雨がウソのような快晴でした。青空に五輪がくっきりと浮かび上がった瞬間は、一生忘れないシーンです。女子バレーの優勝も快挙でした。父から閉会式のチケットをもらい会場へ。開会式の入場行進とは違って変わり、選手は国境を越えてバラバラ行進。「これが古代オリンピック精神」なのだと感激しました。

2020年の東京オリンピックはどんな姿になるのでしょうか。直近の世界を見渡せば、いたるところで紛争が起きています。宗教・民族・貧富など、原因は数え切れません。古代オリンピックの時代でも、ギリシャ圏の都市国家間の争いやペルシャとの戦い、ローマとの攻防戦などが続くなかでも、オリンピック期間中は戦いを中止した事実は重いと思います。勝敗にこだわらず、“健全な精神は、健全な肉体に宿る”の精神を再認識して、犯罪のない「安心・安全な」日本を復活して、外国の観光客を迎えようではありませんか。

永楽宮は陝西省戸県の重陽宮と北京の白雲観と共に中国道教全真教派の三大総本山の一つとされています。現在は山西省南部の芮城^{ぜいじょう}県城北の竜泉村にありますが、もともとは黄河の北岸に近い山西省永済市永楽鎮にありました。黄河の三門峡ダム建設工事に伴う水没を避け、中国政府によって1959年から1965年の6年の歳月をかけて現在の地に移築されました。

永楽宮は道教八仙の一人「呂洞賓」を記念するために建てられた道教寺院です。呂洞賓は唐の貞元中(785～805)に蒲州(山西省永済市永楽鎮)に生まれました。呂洞賓は民間ではとても人気があり、各地に主神として祭る廟も多いです。全真教の開祖・王重陽に金丹道の秘伝を伝授したという説話から、全真教では特に重要視されています。

500mもの長さの中軸線上には、宮門、龍虎殿、三清殿、純陽殿、重陽殿など五つの建物が並んでおり、清代に建てられた宮門以外は全て元の時代に建てられました。この中では三清殿が一番大きく、中に道教の創始者老子を祭っているのが永楽宮の本殿となります。殿内真ん中には老子の化身像が祭られています。東から順番に玉清元始天尊、上清靈宝道君、太清太上老君と呼ばれているので

「三清殿」と名付けられたのです。

■主な石窟

殿内の四方の壁一面に神々が道教の始祖である元始天尊を礼拝する姿を現した有名な壁画「朝元図」があります。高さ4m、長さ95m、面積400平方メートルあまりの大きさです。

壁画の内容は、天や各地から数百の神々が手に笏を持ち、足に瑞雲を踏み、一斉に集まり元始天尊に拝謁する場面です。描かれた当時(元代)に流行っていた厳かな雰囲気構図形式です。8体の帝后主神とその従属たちはそれぞれ東、西、北の壁に描かれていて、真ん中に位置している「三清」の塑像に対して礼拝しています。南壁の東側には青龍、西側には白虎が描いてありますが、中に向いていますから入り口の守り神ではなく、礼拝者の先頭にあたります。

東壁には玉皇大帝、后土大帝とその周りの山や川などの神々が描かれていて、道教では人間の運命と関わりがあります。西壁には木公大帝、西王母大帝とその周りの太乙¹⁾神、雷府八部の神々が描かれていて、魔除けや豊作、安楽の役を司ります。北壁には紫薇^{しび}大帝、句陳大帝とその周りの星辰諸神つまり二十八宿、北斗七星、南斗六星と日月五星



元始天尊を礼拝する姿を現した有名な壁画「永楽宮壁画朝元図」。

『永楽宮壁画朝元図釈文及人物図示説明』より 肖軍主編(中国書店 2009)



〔左〕西王母 〔右〕蒼頡²⁾。

(埼玉県山西省友好記念館所蔵品、永楽宮壁画模写絵画より)

鮮やかです。太乙が手に笏を持ち、足に瑞雲を踏み、舞っている姿はゆっくりと西王母の方へ歩いているように見えます。西王母の手前の玉女は「朝元図」の中で表情が最も豊かです。眉が逆さの『八』の形で、何か心配事が有るように見えます。

帝王や後の姿をした主神8体を囲んでいる約286体の従属神の群像はそれぞれが異なる286の表情があります。古

などを描いています。身長2mを越える神々が四層に分かれて順番に「三清」を礼拝しています。全体がバランス良く構成されています。

もう少し詳しくご説明をします。北壁に描かれている紫薇大帝の前には光輪を被って青い衣を纏い、髭の生えていない若者は北斗七星、その左に金、木、水、火、土の五大惑星が並んでいます。前で金色の光輪を被っているのは太陽神、銀色の光輪を被っているのは月の女神です。月の女神の上で首に蛇を巻き付けている少女は水星で、水星の傍らにおちょぼ口をして琵琶を抱き、豊満な体つきでかしまっているのは金星で、金星の下にお盆をもっているのは木星です。大地を踏んでいるのは土星です。手に武器を持ち、怖い顔をしているのは火星で、一番上で首に緑のリボンを結んでいるのは帚星と呼ばれています。この帚星は60年に一度現れ、人間に災難をもたらすと言われています。

西壁に描いてある木公と西王母は夫婦で、木公は男の仙人を、西王母は女の仙人を管理しています。西王母は帽子に「坤」という字を書いて、柔らかな陰を表しています。西王母の手前にいる青い衣を着ている太乙^(注)は「朝元図」の中で最も色彩が

代の画家達は唐、宋以来の絵画の書き方を継承して、元代の特徴をも取り入れて「朝元図」を完成したのです。人物を描く線は流れるように滑らかで、元代の壁画の中で貴重なものです。

■注

1) 太乙(たいいつ)：太一とも言う、古代中国における宇宙の根元を表す哲学的概念、または天の中心に位置する星官(星座)、またはその神格。

(ウィキペディアより)

2) 蒼頡(そうけつ)：漢字を発明したとされる古代中国の伝説上の人物。蒼頡伝説の主流は四眼のようで、古代の神様を描いた本では四眼で登場しています。時代が下ると誇張され、六眼のバージョンも登場してきました。永楽宮は元代の創建で、建物のひとつが永楽宮であるため、壁画に描かれた蒼頡も全真教にとって最先端の姿、六眼で描かれたのかもしれない。

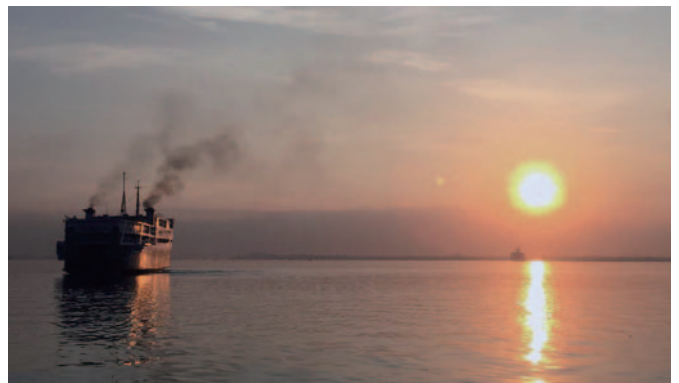
(埼玉県山西省友好記念館神怡館、神林直樹氏)

国際交流員として2004年から2年間、青森県に来日した鄧仁有さん。その後帰国され、山西省太原市にある旅游学院の日本語ガイド養成コースで教鞭をとられています。これから数回、鄧さんが執筆した日本語ガイド資格試験用テキストから、山西省の名所旧跡をご紹介します。

🚢ピースボート 寄港地便り (フィリピン)

劉嘉琦

中国・深圳からの留学生劉嘉琦（liú jiā qí日本読みではリュウ・カキ）さんは、1年間のアルバイトで得たお金を旅費にあて、8月21日、念願の世界一周のピースボードに出帆しました。彼女は「わんわりい」の活動に何回か参加したことがあるので旧知の人も多いでしょう。このたび編集宛に、寄港地便りが届きましたのでご紹介します。



フィリピン近海の日の出(8月27日)

あっという間に、世界一周の旅は一週間経ちました。船での生活をゆっくり送っています。毎日、船内新聞をもらっています。その新聞には翌日行われるイベンドが書いてあります。みんなは、自分が興味あるイベンドを選んで参加できるので、すごく便利です。

いろいろな種類のイベンドがありますので、好奇心が強い私は最初には結構バタバタしていました。何でも参加したくて、結局疲れてしまって、参加したいもの全部には行けませんでした。二、三日経って、ようやく自分がゆっくりしたいと気づき、あまりイベントに行かないようにしています。ちゃんと寝たり、持ってきた本を読んだりしています。就活のための本も持ってきました。

自分がその日読みたい部分だけ読んで、疲れたら休んで、充実したゆっくりの生活で、すごく満足しています。毎日のご飯もちゃんと食べるようにして

いて、おかわりもよくして、みんなびっくりしていました。

「そんなにほそいのに、いっぱいたべれるね」と時々言われています。毎日のご飯を楽しみにしています。はははは…それにしても、痩せたねと言われています。もっと食べて頑張らないといけませんね。

部屋は四人部屋で、みんなとても性格がいい子です。時々一緒に勉強したり、イベントに参加したり、ご飯を一緒にしたりしてよかったです。ルームメイトはグリとランカ、そしてホノカの三人です。グリはスポーツと写真を撮るのが好きです。よくジムに行ったり、プールに入ったりしています。いつもスマホを持って写真を撮っています。

毎日グリと一緒に一時間英語の勉強をしています。船では欧米人が多いし、寄港地に着いたら英語



セブ島サントニーニョ教会内部



フィリピン名物バイクタクシーに乗る筆者

も必要なので、船でみんな英語の勉強に熱心です。ランカは以前、中国の大学に2年間留学していました。二人だけの時には、中国語と日本語を混ぜて話します。同じ部屋のグリが偶然、私たちの対話を聞いた時、びっくりしました。暗号を話しているみたいと言いました。ははは…。

ホノカは船の地球大学に通っています。勉強に熱心な子です。うちの部屋では大体一番早く起きる子です。しっかりしていて、すごいなあと思います。自分は朝が弱いので、羨ましいです。

一昨日(8月26日)フィリピンのセブ島に着きました。一日目は市内観光をしました。セブ島にはホームレスが多いです。そして、子供たちは道でお土産のアクセサリとかを売っています。大体4歳から歳ぐらいの子供なのに、生活のために、このようなことをしなければならないなんて、気持ちが重く

なってきました(この日本語は正しいですか?)。

二日目はボホール島に行って、ダイビングしました。初めてのダイビングなので、怖かったです。不器用な私はダイビングのコツを身につけられなくて、1度ではできません。2回目に海の中に行くとすぐ駄目なのが分かり、マスターに上に戻りたいと言って、できない自分にイライラしました。3回目にやっと少しコツがわかるようになって、30分ぐらい海の中の美しさを鑑賞しました。本当にすごく綺麗で、ダイビングしてよかったと感じました。

今朝起きて、鏡を見たら結構日焼けしていました。でも、夏の旅はそういうもんですよ。日本に戻った時、どれぐらい肌が黒くなってるのでしょうか。楽しみにはしていませんが…ははは…。

この一週間は楽しかったです。次の寄港地はシンガポールです。これからの旅を楽しみにしています。

《'わんりい' 掲示板 II》

◆わんりいの催し **ボイストレーニングをして日本の歌を美しく歌おう!**

あなたも私も笑顔が美しくなる! 身体のを抜いて、気持ちよく発声しよう!!

▲10月の講座: 13日(火)町田市民フォーラム・視聴覚室
27日(火)まちだ中央公民館・視聴覚室

▲11月の講座: 30日(月)まちだ中央公民館・視聴覚室

▲時間 10:00~11:30

★動きやすい服装でご参加ください

●10月の練習歌「心の瞳」

●講師: Emme(歌手)

●会費: 1500円(会場使用料・講師謝礼など)

●定員: 15名(原則として)

◆申込み: ☎042-735-7187(鈴木)
E-mail: wanli@jcom.home.ne.jp(わんりい)



初心者のための水墨画教室

【鶴川水墨画教室】体験のお誘い

生徒のレベルと個性に応じた適切な指導を体験してみませんか。気楽にご参加ください。

●講師: 満柏(◎日中水墨協会会長)

●場所: 市民センター(駐車場有)

〒195-0062 東京都町田市大蔵町1981-4

●曜日・時間:
毎月第2、第4(月)
14:00~16:00

●体験参加費: 1000円

見学: 無料

●問合せ: 野島

☎042-735-6135



満柏

※10月の漢詩の会はお休みです。次回は11月8日です。

【'わんりい'の原稿を募集しています】

'わんりい'は、2月と8月を除く毎月発行の当会の会報です。主として、会員と会の関係者の皆さんの原稿でまとめられています。海外旅行で体験された楽しい話、アジア各地の情報やアジア各地で見聞した面白い話などを気軽にお寄せ下さい。又'わんりい'の活動についてのご希望やご意見及び'わんりい'に掲載の記事などについても、簡単な感想をお寄せいただければと存じます。

日中文化交流市民サークル 'わんりい'

使用済み古切手と書き損じの葉書でご支援を!

日本スリランカ文化交流協会では、スリランカへの教育支援の為、古切手と書き損じ葉書を集めています。古切手は周囲を1cmほどを残して切り取り、おついで折に田井にお渡し下さい。

2015年10月定例会及び11月号おたより発送日

◆10月定例会: 10月12日(月)13:30~

◆11月号おたより印刷・発送: 10月30日(金)10:30~
場所は共に三輪センター・第3会議室です。

★おたより発送準備の日はお弁当を持参ください。

岩山の麓に座している黄金色の大仏様の前を通って階段を上る。それだけでも疲れるスリランカの5月の暑さであった。直射日光を受けて、ダンブッラ黄金寺・石窟寺院への坂道を登った。鉄の門から入口までが遠く感じた。1990年、初めて訪れた観光コースのハイライトは、石窟内に画かれた壁画群である。まだ若かったためか、さっさと足を運んだ私であったが、今では杖を用意して歩かねばならない。それほどまでして、再度訪れたいと心をひきつけるものは何なのかと、自問自答してみた。一つには、その当時の強烈な印象の絢爛壮麗な壁画面画・天井画・仏像群が「ダンブッラ・マンダラ」として、私の中で膨らんだのであろう。もう一つは、その少し前に観てきた敦煌の莫高窟の仏像芸術と、ダンブッラがどうしても重なってしまう不思議な魅力であった。十分な仏教知識もない私の感性に、ダンブッラ黄金寺・石窟寺院の仏教彫刻や絵画が「声なき声の説法」として訴え、それが届いたのであろう。

🔥 岩山の洞窟考

ユネスコの世界遺産に認定されているダンブッラ仏教遺跡は、スリランカで最大の岩窟寺院である。荘厳な壁画も総面積およそ2300m²に及んでいる。仏像も157体だと聞いている。岩山の高さは35mあり、山の中腹、高さ180m位の位置に5つの洞窟寺院がある。この周辺には、現在も80余の洞窟があるそうだ。その為に、なだらかな岩肌の上を登って行くことになる。ダンブッラの歴史を紐解くと、紀元前1世紀まで遡ることになる。当時の王・ヴァッタガーマニーアバヤ王(前103～77年)の碑文や口承伝承が残っている。その頃は僧侶たちが住居としていたのであろう。だとすれば、此処が伝道布教や修業・瞑想センターの役割を果たした場所だと考えられる。行をする場所は俗域から離れていた方が良く、かと言って、僧侶の食生活は托

鉢に頼るため、寺院のある聖域から歩いて行ける近隣に托鉢の場がなければならない。私の知る限りのスリランカの岩窟・石窟寺院を考察すると、比較的町並みや街道に近い場所にある。聖域と俗域の丁度よい接点が望ましい。要は俗世間と聖域の距離は、近からず遠からずでなければならない。

タランガッレ・ソーマシリ師のお話によれば、このダンブッラは、自然にできた岩窟を利用して寺院が作られたという。当地は雨季のスコールが激しいのだが、岩窟の天井から水が滴り落ちないのであろうか？ その工夫がどのようなものか専門的な知識のない私には分からない。またどのような工法でかくも見事な石窟寺院として完成させることができたのかも私の思考を越えている。

いずれにしても余程の経済的な背景がなければこれだけ立派な色彩壁画を寺院内に引きあげるのは不可能であろう。もともとは修行僧たちの修業の場である僧院だった所に、タミル人との戦いに敗れた王がここで保護され僧院を自身の住居とし、反撃のチャンスを待った場所だと言われている。不安や苛立ちをおさめる為に描かれた仏画であろうか。王は仏教信仰に厚く、また保護を受けたことへの感謝の念により自身の財産を寄進し、ダンブッラの僧院を寺院と発展させたというが、その後の気が遠くなるような年月をかけ現在の姿に完成させていったスリランカ民衆の仏心を思わずにはいられない。仏教に寄せる民衆の布施と仏への供養の賜物であろう。

🔥 黄金寺院・石窟寺院の5窟を拝し観て歩く

「第1窟が一番古くて、第5窟になると1915年に作られているからもっとも新しいですよ」と説明している、ツアーグループの日本語ガイドの声がした。第1窟は神様の王の寺院といわれている。2200年以上の歴史を持っている。第5窟は100年前に開窟されている



ダンブッラ石窟寺院は5窟ならんで岩山の中腹にある

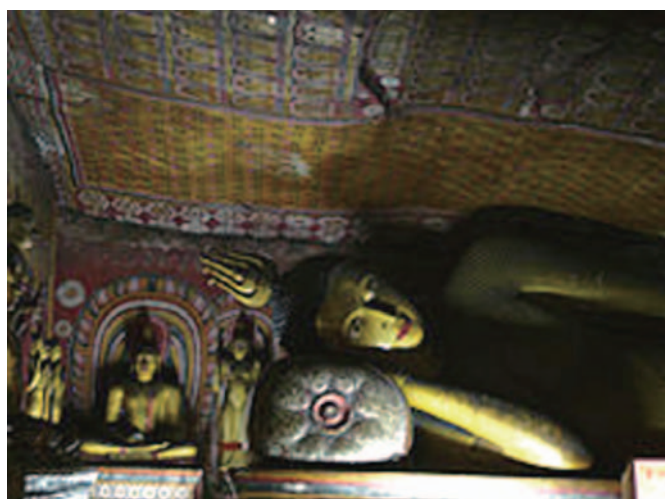
のか…。それとも塗り直されたのか？ 後で直に見てみよう。まずは第1窟に入ってみた。全長14mもある涅槃仏が横たわっている。足の裏が赤く塗られているのにびっくりした。左足と右足の親指が揃っていないのは寝仏さまの特徴なのだろうか。右側の奥には立ったままの釈尊の弟子・アーナンダ像が置かれている。赤い着衣である。天井を見上げたら一面に絵画が見れた。壁画技法は、生乾きの漆喰に水溶性の塗料を用いて画かれているのだろうか。石を砕いて染料を創るとも聞いたことがあるけれど、素人なのでわからない。時代はかなり後になって、ポロンナルワの王朝の王・ヴィジャヤパーフ1世(在位1055～1110)によって、修復され、更に同王朝のニッサンカマツラ王(在位1187～1196)によって再度修復がなされた。ニッサンカマツラ王はこの窟を「黄金山洞窟寺」と呼称し、大きな碑文を残された。そう聞けば入口の山門と第1窟との壁面にあったのは「それであったのか」と思い出しながら第2窟に行った。第2窟の横幅は約37m、奥行は23mと云う。坐像40体位、立像10数体、6mもあろうかと思われる横臥仏の他、彫刻があった。

以前は写真撮影が禁じられていたのに、今回はフラッシュ使用が可能になっている。ここでも天井を見上げたら、仏陀の説法が描かれている。スリランカ史についても所せましの如く画かれており、シンハラ人とタミル人の戦いの画面があった。そんなに古くから両民族の争いがあったのかと、つい最近まで続いていたスリランカの内戦を思い出す。中ほどに歩み寄ると、天井からぼたぼたと雫が滴り落ちて、その下に置かれた大きな壺の中に入っていく。この水は聖水で、大切な仏教儀礼の際に僧侶が飲む水だという。ダンブツラとは「水の湧き出る岩」の意味があり、当地の名の由来であるとのことである。絶えず水滴が落ちて来ては水浸しになるのでは考えてみるが甕の中の水量は不思議に減りも増えもしないそうだ。

次の第3窟はキャンディ王国時代に作られた寺院で、全長9mの寝仏や50数体の仏像があった。仏陀の人生や仏教行事に関する天井の画にうっとりした。第4窟になると多少の疲れが出てキャンディ末期の坐像群よりも仏塔の方に目移った。ゆっくりと最後の窟に足を踏み入れると新しい感じがする。塗り直された



ダンブツラのストゥーパと釈迦坐像



ダンブツラの涅槃仏

のか、横臥仏の周囲の壁画まで、他の窟に比べて明るく見えた。1915年と云えば日本の年号は大正4年であるから、気の遠くなるような太古ではない。どの窟も参拝者でほぼ満場の感じで、この暑さの中をと思わずにはいられない。大規模な修理は18世紀のキャンディ王国が最後になっている。

タンブツラ石窟・黄金寺の入場券を買って靴を脱いで預け、黄金寺院に入り、此処でも見事なマンダラに感動した。タンブツラ黄金山・石窟寺院が内観外観の威容と世界遺産の栄光を保持し保存する大変さを痛く感じると共に、崩壊が進まないよう念じた。

■掲載写真は、「Golden Temple of Dambulla-UNESCO World Heritage Centre」

(<http://whc.unesco.org/en/list/561>) より

フィリピン滞在記 ⑨---フィリピン料理は単純だが、奥が深い(2)

為我井輝忠

前回フィリピン料理の全般的な特徴を述べてみたが、実際には地方によってもそれぞれ違いがあるし、また外国からの影響もある。

外国からの影響と言うと、スペイン料理の流れもあるが、やはりそれよりも中国料理の影響が強いのではないだろうか。スペインは数百年もの間フィリピンを統治していたので、食べ物に対してもスペイン的なものをたくさん残している。旅行をしていた際に、あるホテルで朝食を食べた時、スペイン風オムレツというのがあった。しかし、中国人はスペイン人の来比よりももっと前にこの国に来ており、その影響はかなり大きい。特に、庶民の食べ物の中はかなり浸透している。

フィリピンを旅行していると、どこに行っても中国料理店があり、フィリピン料理に飽きた時には中国料理を食べるのがちょうどよい。ただ、中国本土で食べる中国料理とはいささか違うところがある。味付けがフィリピン風で、味付けが濃く、甘く感じられる。

マニラのチャイナタウンに行くと、本格的な中国料理は食べることが可能である。香港の飲茶のようなものから北京ダックのようなものまで食べることが出来る。しかし、こうした典型的な中国料理に対して、フィリピン風中国料理と言ってもよいもの

がある。例えば、春巻きは日本でも見られるごく普通の中国料理であるが、ここでは「ルンピア」という名前で存在する。しかも、「ルンピア上海」とか「ルンピア・ウボット」という具合にいろいろな種類があり、中国料理店だけでなくごく普通のレストランでも食べることが出来る。これはもう普通のフィリピン料理になってしまった。

もう一つ「シャオマイ」と言う中国風のスナックがある。これは「シュウマイ」を連想させるが、実物は「肉マン」や「アンマン」と同じもので、これは屋台でも食べ物屋でもコンビニでも、どこでも見かける庶民的な食べ物の一例である。ちょっとお腹がすいた時に格好なおやつである。何度か食べたことがある。

餃子はどういう訳かフィリピンでは見かけない。マニラのチャイナタウンでは「北方餃子店」という店があり、ここで食べることが出来るが、一般的には全く見たことはなかった。恐らくフィリピンに渡来した中国人は広東省や福建省あたりからの南方人なので、餃子は持ち込まなかったのだろう。

「チョップスイ」という八宝菜か野菜炒め風の野菜が中心の料理もある。これは東南アジア各国でよく見かけるものである。これは味付けがあっさりしているので、時々食べることが出来る。ただどこでも量



パンシット：ビーフと同じようなパンシットは、ごく普通のフィリピン料理となっている。



チャプスイ：安価で、しかも野菜が多いので、よく食べることが出来る。



大きなスーパーでは「巻きずし」が販売されているが、値段は少々高めである。



「たこ焼き」の屋台。これはフィリピンの人々の好きな食べ物である。

んあるが、しかし、中国料理店ほど全国津々浦々にあるわけではない。大きな都市に限られている。

豆腐については前号で紹介したが、その他には大きなスーパーでは巻きずしが売られているのを目にする。その場で作り販売しているが、値段はやや高めで、そんなに買う人はいないような気がする。また、たこ焼きの屋台をよく見かける。看板に日本

が多すぎて、一人の時など半分も残してしまう。

他にも中国人がもたらした食べ物は枚挙にいとまがない。最後に、麺料理について少し紹介したい。フィリピン人は麺(ヌードル)料理が大好きである。スーパーをのぞくと、インスタント麺売り場が大きな面積を占めていて、20種類以上はあるのではないだろうか。大きな店では日本や韓国のもものかなり売られている。よく見かけるのは、中国からも持ち込まれた「パンシット」という焼きそばがある。これには「パンシット・カントン」とか「パンシット・ビーフン」、「パンシット・パラボック」等がある。普通の汁そばもあり、「マミ」や「ロミ」という名前が知られている。

日本料理に関しては、中国料理ほど普及していないと思われる。マニラなどには日本料理店はたくさ

語で「タコ焼き」と書かれているので、すぐ目につく。これは安くて人気がある。しかし、食べたことはない。ある時、カフェに入った時メニューに「しゃぶしゃぶ」と書かれていたので物珍しさで注文したところ、出てきたものを見て驚いたことがある。それはスープ状の麺で、最初間違っただけかと思っただけである。このように日本料理と言っても実際見たことがない人が作っていることがあり、異文化体験の上で大変興味を覚える例である。

‘わんりい’は、いつでも新入会を 歓迎しています。
年会費(4月～3月): 1500円 入会金なし
郵便局振替口座: 00180-5-134011 ‘わんりい’
入会時期によって割引あり。お問合せ: 下記。

‘わんりい’の名は、‘万里’の中国読みから付けられました。文化は万里につながるの想いからです。

主としてアジア各地から日本に見えている方々と協力し、講座、研究会、鑑賞会、展覧会等を開催し文化的交流を通して国や民族を超えた友好を深めたいと願っています。入会されると、

- ①年10回(2月・8月を除く)おたよりをお送りします。
- ②‘わんりい’の活動の全てに参加できます。

問合せ: 042-734-5100 (事務局)

- ◆インターネット会員の制度もあります。アドレスを頂いた方に、毎月、カラーの美しい‘わんりい’をPDFファイルでお送りします。こちらは無料です。
- ◆町田各所でご自由に取って頂けます。上記へお問い合わせください。



「しゃぶしゃぶ」というので注文したら、これは麺の入ったスープだ。

2015年中国四川国際文化観光祭・日本来客は“山水宜賓”を体験

文/写真:日中観光振興協会 三好隆盛

四川省政府・四川省旅行局によって、今年も「四川国際文化観光祭」が、中国三大名酒「^{ごりょうえき}五粮液」生産地として知られる四川省^{ぎひん}宜賓市で開催された。

四川省は、温暖で肥沃な米作地であることから「天府之国」と称され、「パンダの生息地」「九寨溝・黄龍」「幻の高山植物・青いケシが咲く四姑娘山」など、‘わんりい’の皆さんにもなじみ深い観光名所が多数ある。前述の「観光祭」は、四川省でも屈指の観光名所である宜賓市及び周辺紹介の試みとして開催され、四川省観光局より四川省に関心を寄せる団体が招待された。

今年は、日本代表団として、中国国家観光局駐日事務所、日中観光振興協会、写真家、旅行社、各方面のメディア記者等32人が、アメリカ、ヨーロッパ、ロシア、インド、韓国など世界各国からの旅行業界とメディア関係者等とともに今回のイベントに参加し、四川省と宜賓市人民の厚いもてなしを受け、四川省宜賓市（一部^{じこう}自貢市）の数々の景勝地を訪れた。

中国でも最高レベルの文化観光都市・宜賓市は観光資源がきわめて豊富であり、その中でも、「翠甲天下」の蜀南竹海は、中国で最も美しい森ベスト10のうちのひとつである。世界的にヒットした映画『グリーン・デスティニー』（監督アン・リー、原題『臥虎蔵龍』）のロケ地ともなった。また、奇峰林立の「興文石海」は、中国で最も美しい地質公園ベスト10の中のひとつであるし、中国三大名酒「五粮液」産出地・十里酒城は“酒の海”と称されている。

また、宜賓市は「山水宜賓」とも称され、いわば中国の歴史文化の豊富なところで、古来さまざまな文化が融合し気品溢れる美しいところである。

参加者一行は、宜賓市及び周辺の名だたる観光名所を訪れ、その美しさを堪能し、

規模の大きさに圧倒された。様々な体験の中で特筆すべきことは、宜賓市の“空中”観光体験で、参加者にとって斬新な観光体験になったのではないかと思う。四川省で初めて始まったこの低空観光ツアーで、参加者はヘリコプターに乗り、みずからの目で三江（長江・岷江・金沙江）が交わるダイナミックな景観を俯瞰する体験をした。

招待旅行最終日の8月26日に、四川省政府省長の魏宏氏の司会で、「2015年中国四川国際文化観光祭」（中国語の略称は「文旅節」）が開催された。中国国家観光局副局長の杜江氏が基調講演し、アジア太平洋観光協会（PATA）首席運営官のマリオ・ハディ（Mario Hardy）氏からは情熱的な発言がなされた。

また、四川省旅行局のこれまでの取り組みが報告され、四川省紹介に功績のあったガイドへの授賞式が執り行われ、新たに四川省の4Aクラスの景勝地が誕生した。また、宜賓市は、今後“竹海+石海+酒海+花海”という観光資源を生かし、「蜀南竹海」、「興文石海」など中国国家の4A景勝地を保有する地域として観光レベルの格上げがなされる。加えて「南溪古街」、「流杯池景勝地」、「七洞沟景勝地」などが新しい景勝地として開発に力が注がれることが決まった。



興文石海



古鎮李莊

「2015中国四川国際文化観光祭」に参加して

床呂 英一

私は中国について関心はあったが、なかなか機会に恵まれなかった。この度、‘わんりい’より『2015中国四川国際文化観光祭』の呼び掛けがあり参加した。大変興味深い旅であった。

I. 旅行日程 (全5泊6日)

【8月22日】

中国東方航空で、成田発上海まで3時間20分、上海から四川省の成都まで3時間30分。成都望江賓館」泊。

【8月23日】

自貢市へ移動(3時間)。昼食。自貢市恐竜博物館見学。宜賓市・五粮液広場見学。「万里長江第一古鎮」の「李庄」見学。宜賓市の「魯能皇冠假日酒店」泊。

【8月24日】

興文県「苗族城」見学。「興文石海」見学。

【8月25日】

「蜀南の竹海」見学。世外桃源度假酒店で昼食。体育館で買物。ホテルで歓迎晩餐会。宜賓市「酒の都劇場」で観光ショー鑑賞。

【8月26日】

世外桃源度假酒店で『中国四川国際文化観光祭』に参加。参加の旅行業者等に宜賓市の名産などがPRされた。成都「成都望江賓館」泊。

【8月27日】

中国東方航空で上海経由成田帰着。

II. 旅の感想

- ①宜賓市の観光客誘致にかける熱意を感じた。街中に大きな観光祭の看板が立っていた。しかし、空港がある成都から4時間は少し観光に不利な条件である。
- ②「李庄」では、ちょっとした広場で中国人数人がダンスをしていた。中国人のおおらかさを感じた。
- ③どこに行ってもスケールが大きくて感心した。「恐竜博物館」も大きい、「興文石海」は特にその規模の大きさに驚いた。
- ④「蜀南の竹海」は、日本的なイメージで、日本人よりも西洋の観光客の方により印象を与えるのではなかろうか。「竹林の七賢」の像があり、内2人は囲碁



苗族の子どもたちによる歓迎のダンス

を打っている像で、囲碁の好きな私には楽しめた。

- ⑤ホテルの設備はいい。また、各部屋に傘が置いてあり、雨天のときに貸し出される。防毒マスクの常備に驚いた。そんなに大気汚染が酷いのかと思ったら、火災の際につけるマスクであった。



興文石海*・鍾乳洞入口

*総面積の約156km²。2005年ユネスコにより世界地質公園と認定される

- ⑥四川料理に満足。辛いという定評だが、それほどでもないと思った。鹿肉を食べたときは辛い思ったが、2枚目の肉は辛さを感じなかった。辛いと思っても慣れてしまうのだろうか。旅行前に四川生まれの中国人に「四川料理は辛くて油が多いので、お茶をたくさん飲むと良い」と聞いていたのも役立った。食事はバイキング形式がほとんどであったが、果物に特色がある。メロン、葡萄などのほかに、龍眼、なつめ、ドラゴンフルーツがいつもあった。
- ⑦日本からの参加者の中に印象に残る中国人女性がいた。アジア太平洋観光社社員であり、滋賀大学大学院の学生である。個人で「和華」という機関誌を発行している。日中友好にかける熱意に敬服した。

(「和華」のホームページ <http://wakakayi.jimdo.com/>)

'わんりい' 掲示板 I (常設講座・定例会・おたより発送日の案内) は、17ページです。

四川省山梨県友好省県締結30周年
四川観光プロモーションセンター設立記念
四川観光友好交流会「ようこそ美しい四川へ！」

- 2015年10月25日(日) 10:30 ~ 12:00
- セリアンタワー東急ホテルB2F宴会場
渋谷駅西口・徒歩5分 ☎03-3476-3000(代表)
東京都渋谷区桜丘町26-1
- 【スケジュール】
10:30 受付開始
11:00 開会 日中の来賓挨拶
11:20 四川観光の魅力(ビデオ上映)
11:30 川劇・変面ショー「変面」の奥義を知ろう!
◆ 演者: 王文強(28歳)国立中国戯曲学院卒業
11:45 抽選会及びメディア取材
12:00 終了
- 申込: 住所・氏名・職業・☎を10月23日までに下記へ
Email: miyoshi.r@jctpo.com
☎: 090-9831-5439 三好
(株)日中観光振興協会

初めての方への能楽体験ワークショップ

能楽堂の見学、基本の謡や舞、能の歴史などのお話
があります(英語・中国語対応できます)。

2015年10月10日(土) 12:00~13:30(11:50会場集合)

- **梅若能楽学院会館**
東京都中野区東中野2-6-14
JR東中野駅西口徒歩8分、地下鉄中野坂上駅徒歩8分
- 講師 レイヤー・ヨウコ 伶以野陽子(公財)梅若会所属
- 会費 2,000円(当日会場でお支払いください)
- 持ち物: 白足袋または白ソックス
- 申込・問合せ: yokolayer@gmail.com

山下孝之・ライブ

ケーナとアルパ(南米のハープ)のデュオ

あさおサークル祭ケーナ演奏会でおなじみの
山下孝之さんのライブです



- 出演: 山下孝之(ケーナ&キーボード)
栗田ひろ美(アルパ) ゲスト: 大久保宙(カホン)
- 2015年11月15日(日) 15:00開演
- 町田ビートボックスカフェ <http://beatboxcafe.jp/>
(町田市中町3-5-6、1F)
- 参加費: 2,000円+500円(ワンドリンク代)
全席自由
- 問合せ&申込: ☎042-720-2305(ビートボックスカフェ)
Webでも <http://hcomusic.com/?pid=93150300>

◆わんりいの催し **手づくりワンタン交流会**

そろそろ温かいものが美味しい季節になります。皮から
手作りして一味違うワンタンで交流しませんか。

- 2015年10月18日(日) 10:30 ~ 14:00
- 町田市民フォーラム・料理室
- 会費 1,500円
- 講師 郁唯(わんりい中国語勉強会講師)
- ◆メニュー: 皮から作る手作りワンタン
黒酢を使った素野菜の炒め物&サラダ
白キクラゲと棗の薬膳デザート
- ▲ 申込 ☎042-734-5100(わんりい)
Email: wanli@jcom.home.ne

第17回 町田発国際ボランティア祭・2014夢広場
~この星に平和と希望を~

国際支援と友好活動をしている団体の、エスニック気分が
溢れるお縁日です。

◎ 'わんりい' は美味しい中国茶色々を販売します。

- 11月3日(祝) 10:00 ~ 16:00
- まちの駅「ぼっぽ町田」イベント広場
- 問合せ: 町田国際交流センター
☎042-722-4260
- 主催: 2012夢広場実行委員会
- 共催: (財)町田市文化・国際交流財団



'わんりい' 207号の主な目次

北京の花(2)	2
論語断片⑩ 己の欲せざる所は人に施す勿れ	3
媛媛讲故事(77)「白狐Ⅲ」	4
媛媛讲故事(78)「狐たちの乱」	5
諺・慣用句(43)「郷に入っては郷に従え」	6
詩人尹世霖の童詩の世界⑩「海の岩」	7
元寇と鷹島(1)	8
四姑娘山写真だより34「女王谷の中学校」	10
四川名酒「五粮液」について	11
オリンピック再考	12
鄧さんの観光ガイド⑤「永楽宮」	14
ピースボート寄港地だより(フィリピン)	16
スリランカ紀行②「ダンブッラ・マンダラ」	18
フィリピン滞在記 ⑨フィリピン料理(2)	20
2015中国四川省国際文化観光祭	22
2015中国四川省国際文化観光祭に参加して	23
'わんりい' 掲示板	17・24